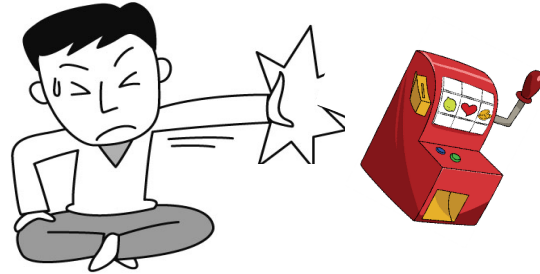


市議団がカジノシンポを開催

カジノをめぐって大門参議、蝦名市長などが市民と議論



- これまでのカジノをめぐり経過
- 2003年 釧路商工会議所青年部がカジノ構想
 - 2010年 国会にカジノ議連誕生
商工会議所青年部が模擬カジノパーティー
 - 2011年 市議会で共産党を除く1名でカジノ議連結成
 - 2012年 阿寒湖でカジノ創設サミット
 - 2013年 7月 蝦名市長が知事に阿寒湖へのカジノ誘致を要請
12月 国会にカジノ（IR）法案提出
 - 2014年 釧路市がカジノの調査費160万円を予算計上
釧路市長などが韓国・ドイツなどのカジノ視察を計画



4月20日、共産党釧路市議団の主催でカジノの問題を考える市民シンポジウムが開かれまし
た。このシンポには、カジノ反対の立場から共
産党の大門みきし参議院議員、クレジット・サ
ラ金問題に取り組み、ギャンブル依存症の相談
にのっている釧路はまなすの会の加藤弘二会
長、賛成の立場から蝦名大也市長、ひがし北海
道総合観光リゾートIR誘致協議会の杉村壮平
幹事にパネラーになっていただきました。共産
党市議団はカジノには反対の立場ですが、今回
のシンポでは賛成・反対の意見を市民に聞いて
いただき、一緒に考え、討論する目的で開いた
ものです。市議会の黒木満議長に来賓のあいさ
つをいただきました。

共産党は、カジノ解禁の法律
にも、阿寒湖へのカジノ誘致
にも反対しています。

大門参議のお話しの概要

カジノは刑法で禁止されている賭博であることを深く受け止めるべき。ギャンブル依存症も増える。カジノの解禁を目指している勢力はパチンコメーカー、建設大手、観光業界など、ビジネスチャンスを狙って政界工作を進めている。

賭博は負ける人がいて初めて成立するもの、経済対策の名に値しない。

実現可能なのは大都市の巨大カジノだけ、それでも厳しいし、地方のカジノは現実性がなく、やっても失敗が濃厚。

カジノを誘致したら、ヤミ金、売春組織などはつきもの、完全に規制できるものではない。

いったんカジノの町との評判が定着すれば、これまで積み上げてきた観光地の魅力はいつぱんに地に落ちる。

観光を言うならもとの資源の活用で。外から持ってきて成功した所はない。

蝦名市長のお話しの概要

阿寒湖にはすばらしい自然があるが、厳しい自然の中で暮らしている人たちもあり、こうした自然を守り、人々の生活を支えることが何よりも大事。

北海道は、食・観光・エネルギーがキーワード。しかし、道東は航空自由化などもあり、輸送力などでハンデキャップが多い。釧路空港の台湾定期便もなくなる。

阿寒湖の宿泊者数が14年間で45%も減った。宿泊客がもう一泊、阿寒湖に泊まってもらえるような施策が大事、しかしなかなか妙案はなかった。だからカジノを考えたい。

カジノは世界の140ヶ国で行なわれている。ローカルなカジノ、中規模のカジノもある。

阿寒のマリモを守るために観光の基盤をしっかりとる必要がある。だからカジノを。カジノでは地元食材を使うので農漁業にもつながる。

アイヌ文化もあり、カジノの機能を活用したい。

市議団だより西部・阿寒・音別版
村上かずしげ
通信 2014年4月27日
発行 日本共産党釧路市議団

このチラシは政務活動費で作製しました。